

## 端午の節句を祝う

アメリカ・エアハート小学校にて

♪ Yane Yori Takai Koinobori... ♪

と、歌声が聞こえてきそうです。嘉手納基地内にあるアメリカ・エアハート小学校の生徒さんたちは「こいのぼり」や「かぶと」造りが大好きです。同校の日本文化クラブに所属する小学校3年生から5年生のみなさん、川畑先生の指導のもと、こいのぼりや端午の節句についてお勉強しました。

風にゆれるこいのぼりのように  
スクスク成長中！

### Part I

“DODDS”って、知ってる？

米軍の台風対策・台風コンディション

### Part II

#### !!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。意外な発見があるかも...必見です！

地球の日“アース・デー”

— 嘉手納基地での取り組み —

国際交流: 沖縄国際婦人クラブ  
国際ソブチミスト沖縄

オク情報: 基地内へ電話をかける

(写真提供: アメリカ・エアハート小学校)

かぶと



こいのぼり



ジュニア  
クラブ



こいのぼり



# TANGO-NO-SEKKU

## AMELIA EARHART PRIMARY SCHOOL

(写真全て、チップ・スタイツ氏提供)



# DO YOU KNOW DODDS?

“DODDS”って、  
知ってる？

第18航空団広報局



皆さんは在沖米軍基地内の小中高等学校が、米国国防総省立学校( Department of Defense Dependent Schools)ということをご存知ですか。軍人関係者はDODDSと略文字で表記してダッズと称します。現在、在沖米軍基地内の学校に約7900名の学生が通学しています。その内の約4500名が嘉手納基地内の国防総省立学校に通っています。嘉手納基地内には小学校が4校、中学校が2校、高校が1校あります。

基地内は日本の学校制度と違い、小学校は通常幼稚園から5年生(または6年生)まで、中学校が6年生(または7年生)から8年生(日本の中2)まで、高校が9年生から12年生(中3～高3)までという学年制度になっています。学校によって学年制度が若干変わり、アメリカ・エアハート小学校では、3年生から5年生までという小学校の高学年のみを教えています。

日本の学年は4月から始まり3月で終わりますが、基地内の学校は8月の最後の週に新学期が始まり、翌年の6月中旬に終了します。基本的に前期(1・2学期)と後期(3・4学期)があります。よく知られていることですが、米国の夏休みは長く、基地内の学生の夏休みも約2ヶ月半ありますが、その間の宿題はありません。日本人から見ると羨ましい限りですね。



夏休みの間、米国本国に家族と帰り休暇を思い存分楽しむことができるようです。県内に残る児童、学生は、基地内のYouth Center\*やTeen Center\*で主催される様々なキャンプやイベントに参加することも可能です。



[次ページへ続く](#)



\*Youth Center & Teen Center 両方とも部隊が運営する青少年のための福利厚生施設です。前者は9歳から12歳まで、後者は13歳から高校最終学年生までを対象とする学童のような施設です。ゲームやお絵かき、スポーツ、ダンスなどで遊んだり、宿題を済ませたりすることができます。

また、使用する教科書はすべて学校から一人一人に貸し出されるため、学年終了時には返却することが義務付けられています。教科書に書き込んだりするのは厳禁で、もし破ったり汚したりしてしまうと弁償しなければなりません。



体育の授業の際は指定の体育着がなく、通常登校したままの私服で授業を受けます。中高生になると、個人ロッカーがあるため着替えを持ってくる生徒もいるようですが、個人任せのようです。先生によっては、生徒が授業中にトイレに行く場合、先生から「トイレパス」という物を受け取って移動することが決められていたりすることもあります。その「トイレパス」なしで廊下でウロウロしていたりすると、サボっているのかと怪しまれることになります。

高校生になると部活動があります。部活動にもよりますが、ある程度の成績がないとスポーツ系の部には入部できません。1教科でもF（日本の成績で1）があるとまず入部できないそうです。文武両道が理想的という事でしょう。



米国の学校制度では、高校までが義務教育期間となります。成績評価も学校によって様々なため、大学進学を希望する学生は全員SAT Reasoning Test (大学進学適性試験) または ACT (米国大学入学学力テスト) を受けて、その点数を志望校に提出する必要があります。提出した点数と通知表の成績によって本人の実力が判断されるということになります。

通知表は年4回、各学期終了毎に渡されます。中高生になると親に通知表が直接郵送され、成績だけでなく同時にインターネットで自分の子供が提出物をきちんと出したかどうかの確認もできます。ごまかしは利きません。課題、提出物、テスト、出欠状況等が全て点数で評価の基準として公表されているため自分で自分の成績は大方見当できるというのも面白いところです。1教科の総合成績が60点未満になると「赤点」になり、単位を落としてしまいます。自由な校風のイメージがある米国人の学校ですが、かなりシビアな学校生活とも言えるでしょう。





# 台風シーズン到来間近

— 米軍の台風対策について —

# TYPHOON CONDITION



(嘉手納基地広報局写真部撮影)

第18航空団広報局

5月に入りいよいよ沖縄の夏がやってきます。夏といえば、台風の季節でもあります。沖縄に駐留する米軍では、毎年6月1日から11月30日を台風シーズンと位置づけ、台風の接近が無い場合でもTCCOR-4（ティー・コー4）、所謂台風注意報が恒常的に発令されます。

TCCORとはTropical Cyclone Condition of Readinessの略で熱帯低気圧（台風）に対する準備態勢のことを示します。TCCORは、最もレベルの低いTCCOR-4から最も高いTCCOR-1 Emergencyまで、9段階に分かれていて、各々のTCCORレベルは嘉手納気象隊の気象予測を元に嘉手納基地司令官が発令します。TCCORの定義は以下のとおりです。

<p><b>TCCOR 4</b></p>	<p>72時間以内に風速50ノット（約26メートル）以上の暴風の危険性あり。毎年6月1日から11月30日まではTCCOR 4の状態が続く。この時点で、保存食や台風対策用品を用意する。</p>
<p><b>TCCOR 3</b></p>	<p>48時間以内に風速50ノット以上の暴風の危険性あり。屋外の全般的な片づけをする。</p>
<p><b>TCCOR 2</b></p>	<p>24時間以内に風速50ノット以上の暴風が予想される。台風に合わせて屋外の飛ばされそうな物は屋内に移動するか固定する。</p>
<p><b>TCCOR 1</b></p>	<p>12時間以内に風速50ノット以上の暴風が予想される。学校は休校。保存食、飲料水、その他、台風に合わせての生活用品を最終的に点検する。住んでいる所が低地帯であれば、友人宅に避難する。</p>
<p><b>TCCOR 1 CAUTION</b></p> <p>*日本の台風注意報に相当する</p>	<p>12時間以内に風速50ノット以上の暴風の接近が予想される。突風を含む34～49ノットの暴風が吹く。屋外活動の制限。緊急対応チーム以外の全隊員・職員が帰宅。レストラン、郵便局、カミサリー（食料品店）とB X（小売店）等基地内公共施設はすべて営業中止して従業員も帰宅。</p>
<p><b>TCCOR 1 EMERGENCY</b></p> <p>*日本の台風警報に相当する</p>	<p>風速50ノット以上の暴風雨。屋外活動は全面禁止。</p>
<p><b>TCCOR 1 RECOVERY</b></p>	<p>風速50ノット以上の暴風は吹いていないが、突風を含む34～49ノットの風が吹いている。災害復旧作業チームはそれぞれの作業を開始する。その他の者は自宅待機。</p>
<p><b>STORM WATCH</b></p>	<p>台風は、沖縄から遠ざかるとともに風が次第に弱まっていく。予知できない暴風又は強風による危険性はまだ残っている。用心しながらも通常の業務を再開する。監督者からの別段の指示が無ければ、ストームウォッチになってから2時間以内に職場復帰する。学校も同様。（但し、終業時まで2時間弱の場合、出勤、出校しなくてよい）施設司令官の別段の指示が無ければ、カミサリー（食料品店）とB X（小売店）が業務を再開する。</p>
<p><b>ALL CLEAR</b></p>	<p>暴風雨による危険性はないが、暴風後の危険な状態には用心する。</p>



これらの台風情報は、AFNラジオやテレビ、インターネット、電子メール等で配信され、TCCORの変更に対する注意が求められています。

台風が接近すると司令官を含む基地幹部が定期的に対策会議を開きます。その会議では、空軍の重要資産である航空機の台風対策についても議論されます。多くの場合、台風が接近すると戦闘機は駐機場から格納庫へ移し、大型機は台風の進路をさけるように近隣の米軍基地に避難します。この移動は、航空機への被害を避けるため、速やかに行われます。

一方、基地内の台風対策も相当早い段階から行われます。学校も日本側で暴風注意報が発令される頃には休校となり、コミサリーと呼ばれる食料品店では、非常食や飲料水を買って長い列をなすのもTCCOR発令後のお馴染みの風景です。各職場では、建物の出入り口付近に土嚢を積んだり、全ての公用車を安全な場所に移動したり、戸外にある全てのごみ箱を撤収したり、看板をはずしたり、事務所内のコンピュータ機器類を窓際から遠ざけてビニールで覆ったりと少しオーバーなくらい準備万端台風に備えます。台風と同じ性質を持つハリケーンが毎年米国に大きな被害をもたらします。それを目の当たりにしてきている米国人だからこそ、台風に対して警戒、予防に徹するでしょう。



(嘉手納基地広報局写真部撮影)



(嘉手納基地広報局写真部撮影)



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(嘉手納基地広報局写真部撮影)



(嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(嘉手納基地広報局写真部撮影)

# TYPHOON CONDITION